老朽原発うごかすな！ニュース

第114号

発行・老朽原発うごかすな！実行委員会

［連絡先］
090-1965-7102

12・3集会に参加して

再処理・核燃サイクルにとどめを！

公園からでる第２グループのデモ

10月22日の関電本店前の集会、デモに引き続き、12月3日、大阪・うつぼ公園での「とめよう！原発依存社会への暴走1万人集会」に参加し、発言の機会を与えられた。うつぼ公園では昨年5月にも発言している。私はいつも、青森からの参加。発言はたとえ1人であっても、青森の大勢の仲間の思いを背負ってこの場所におり、デモで声をあげているのだという気構えと覚悟を持っている。

「老朽原発うごかすな」「使用済み核燃料の行き場はないぞ」「放射能汚染水を流すな」の三つが本集会の柱であった。私はおおよそ以下のポイントをあげ、集会で話をした。

○放射能汚染水海洋放出反対の粘り強い闘いに、青森は強く連帯する。青森の六ヶ所再処理工場が本格稼働すれば1年間で、福島第1に溜まる汚染水総量の約10倍の汚染水がトリチウム以外の核種も除去されずに、空や海に流される。福島第1からの放出は、六ヶ所再処理工場本格操業の露払いである。

○再処理工場は26回も完工延期を繰り返している。断末魔にあえぐ核燃サイクルに今こそとどめをさそう。

○再処理工場が動かず六ヶ所の使用済み核燃料のプールは満タンになっている。行き場がない使用済み核燃料の中間貯蔵は苦肉の策である。青森のむつ使用済み核燃料中間貯蔵施設の操業を絶対に許さない。

○使用済み核燃料の問題は、原子力推進派のアキレス腱だ。

○核燃サイクルそして使用済み核燃料中間貯蔵は、立地する1地域の問題では絶対ない。全国の課題なんだということ。

○再処理／核燃サイクルにとどめを！原子力発電にとどめを！来年、核燃サイクル誘致40年の節目を迎える青森はその最先頭に立つ！

集会の中盤、カンパアピールにたった発言者の言葉を地元に持ち帰って、闘う決意を新たにする。

「この集会は終点ではありません！ある意味、ここから出発します！」

（核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会　中道雅史）

12・3集会に参加して

原発依存社会から決別を

１６００人の熱気（うつぼ公園、右に舞台）

気温も低くなく、晴天の中で始まった集会に多くの方が参加し元気を分けていただきました。

神戸では、毎月11日に福島を忘れないとして、宣伝行動に取り組んでいます。また、福島原発事故後、毎週金曜日には関西電力兵庫支社前での集会がコロナ禍の中でも途切れることなく続けられ、12月29日に600回目の行動が行われます。さらに、福島県から兵庫県に避難されている方が、国と東京電力に対して補償を求めている裁判の判決が3月21日に言い渡されます。

福島原発事故から、10年以上が過ぎ、原発事故への関

心が薄くなっています。一方で政府は、原発の原則40年、最長60年の稼働についての方針を転換し、40年以上の運転を認め、60年をも超えて稼働できるようにしました。しかし、今一度よく考えることが必要です。原発の安全は「神話」であり、決して事故を起こさない施設ではありません。一度事故を起こせば、私たちのくらしが根底から覆されることになります。また、原発を動かせば必ず発生する「核のゴミ」を安全に処理する技術はありません。このような施設から発電された電力にこれからも頼り続けていくことはできません。核と人類は共存できないのです。

集会宣言を提案する木原壮林さん

今、岸田政権が進めるGX政策についても、気候危機の問題を解決できる政策ではありません。原発に頼ることで再生可能エネルギーへの転換が遅れています。23年度は10月末までで再エネ出力抑制量が15億683万KWで昨年度の2．6倍、出力抑制日数は直近の12月5日までで226日、昨年度比で約1・7倍となっています。原発を動かすことで、再生可能エネルギーでの発電を止めなければならなくなっているのが日本の現状です。

これからも、「原発無くても電力は足りている。いますぐ廃炉」の声を上げ続けましょう。この日の集会を機に、原発依存社会からの決別を宣言し、原発ゼロの運動を拡げていきましょう。

（原発をなくし自然エネルギーを推進する兵庫の会　岡崎史典）

12・3集会に参加して

デモに若い人3人が飛び入り

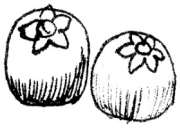
大阪・うつぼ公園での「とめよう！原発依存社会」、最初から熱気にあふれていた。

大島堅一さん（龍谷大学教授）のお話は、わかりやすかった。COP28に合わせた、米国提案の原発3倍宣言に日本も署名したことを批判、「電気が足りないというのはウソ」「原発が温暖化対策に貢献している事実はなく、再エネを増やした地域はCO2削減になっている」「原発の電気代の方が安いというのもウソ」という3つの理由から、岸田政権の原発回帰は許されないと断言された。さらに、「福島原発事故の処理費用、使用済み核燃料の処理費用も不明で、原発を進める限り費用は増え、政府や電力会社にとっては負担が少なく安くても、その分私たち消費者の負担が増えるだけ」としめくくられた。大いに納得だ。

基調提案をする大島堅一さん

その後、青森、新潟、東京、名古屋、鹿児島など全国から闘う8団体のアピール、メッセージ。「再稼働させない」「建設させない」の闘いの報告は、圧巻だった。現地に行かずに、大阪で聞かせていただくことができ、都市に住む私たちも頑張らなければと思いを新たにした。

5政党の方も駆けつけて来られ、1政党からもメッセージがよせられた。関西の5つの市民団体、3つの労働団体からも力強いアピール、最後に木原壮林さん（実行委員会）から集会宣言の提案が、大きな拍手で採択され、閉会となった。岸田原発回帰に抗し、全国の市民、政党、労働団体が結集、これからも連帯して闘うことがしっかり確認できた。

その後の御堂筋デモ、1時間半歩いた。解散地点近くの難波・高島屋付近で高校生らしき3人が友人のもっていた「ふぇみん大阪」の旗を持たしてと隊列に入り、交代で旗を持ちながら「ぼくらも反対や！」と最後まで楽しそうに歩いてくれた。一緒に歩いた89歳（高槻）、88歳（枚方）の方も、若い3人の参加で、疲れが吹っ飛び、最後は「うれしいねえ」と笑顔で終わることができた。彼らのためにも、「すべての原発今すぐ廃炉」「使用済み核燃料は新たに増やすな」と、がんばりたい。

（大阪・高槻　二木洋子）